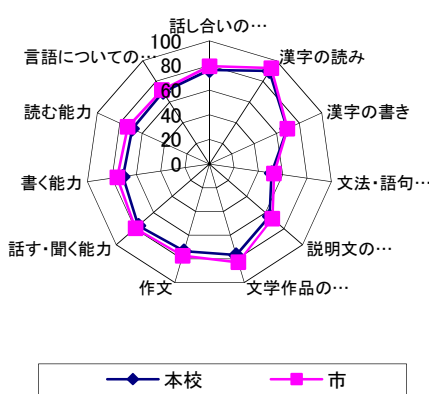


宇都宮市立旭中学校 第1学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容の聞き取り	76.4	79.5
	漢字の読み	89.9	92.6
	漢字の書き	69.2	69.5
	文法・語句に関する知識	50.9	52.9
	説明文の内容の読み取り	64.5	67.4
	文学作品の内容の読み取り	76.9	82.9
	作文	73.6	77.4
観点別	話す・聞く能力	76.4	79.5
	書く能力	71.0	75.6
	読む能力	69.0	73.1
	言語についての知識・理解・技能	69.7	71.5



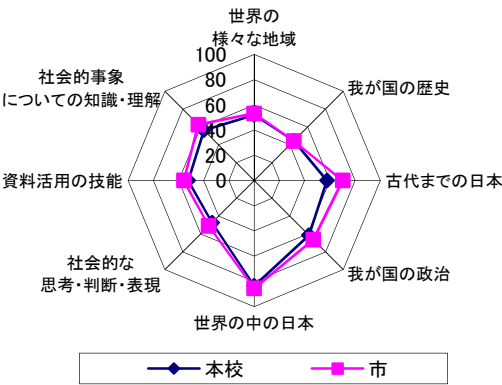
★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容の聞き取り	全体としては76.4%の正答率で、市の平均より3.1ポイント下回っている。特に、「話題の方向を考えて自分の考えをまとめる」記述式の問題の正答率が、市の平均より7.1ポイント低かった。	授業の中でも、聞き取りテストを行い、いつ、どこで、だが、といった聞き取るポイントを理解させてメモの取り方から学習させていく。また、いろいろな場面で自分の考えを記述する機会を多く設けるようにする。
漢字	漢字の読みの正答率は、89.9%で市平均より2.7ポイント下回っている。漢字の書きの正答率は、69.2%で市平均まであと0.3ポイントであった。「書き」の「短縮」「耕す」の正答率は、市平均を上回った。	授業の始めに漢字の小テストを繰り返し行い、練習する機会を多く設ける。書くことについては、今後も授業中に間違いやすい漢字の確認を続け、読みについては、漢字練習や教科書音読の際に、読みのほうにも力を入れて指導していく。
文法・語句に関する知識	正答率は64.5%と、市平均より2.9ポイント下回っている。特に、「文章の展開に即して内容を捉える」記述式の問題の正答率は、市平均を10ポイント下回った。しかし、「文章の中で語句の意味を捉える」問題の正答率は高かった。	説明文の授業では、筆者がどのような理由でその結論に達しているか。何をどんな順序で書いているか、考えさせるようにしたい。また、文章中の例が何を説明するための例で、どうして必要なのかも考えさせながら、筆者の論理の展開をみていくようにする。
説明文の内容の読み取り	正答率は76.9%と、市平均より6.0ポイントも下回っている。「登場人物の心情を捉える」問題は90%の正答率であったが、「場面の展開を捉える」と「作品の展開を考え主題を考える」では、市平均をそれぞれ8.5ポイントと9.1ポイント下回っている。	文学作品の授業では、「場面構成を捉えて、場面の展開をみる」学習をするとともに、「作品の展開を考えて主題を考える」学習では、ノートに記述させてまとめさせる。また、グループ活動で他の意見も参考にできる活動も取り入れる。
文学作品の内容の読み取り	正答率は73.6%で、市平均より3.8ポイント下回っている。特に、「三段落構成で書く」という条件をきちんと満たしている割合が、市平均に比べて5.7ポイント低い。「根拠を基に自分の意見を書く」については書けていた。	作文を書かせる際に、何段落で書く、などの条件をつけた作文を書く機会を増やしたい。よい作文の例や、直す必要のある例なども示して学習させる。また、一文が長くなりすぎないように、短くまとめる練習もしていく。
作文	正答率は73.6%で、市平均より3.8ポイント下回っている。特に、「三段落構成で書く」という条件をきちんと満たしている割合が、市平均に比べて5.7ポイント低い。「根拠を基に自分の意見を書く」については書けていた。	作文を書かせる際に、何段落で書く、などの条件をつけた作文を書く機会を増やしたい。いい作文の例や、直す必要のある例なども示して学習させたい。また、一文が長くなりすぎないように、短くまとめる練習もしていきたい。

宇都宮市立旭中学校 第1学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	世界の様々な地域	52.1	53.2
	我が国の歴史	44.5	44.3
	古代までの日本	57.7	70.2
	我が国の政治	61.4	66.3
	世界の中の日本	83.6	85.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	47.3	51.0
	資料活用・技能	52.4	55.8
	社会的な思考・判断・表現	56.4	62.7



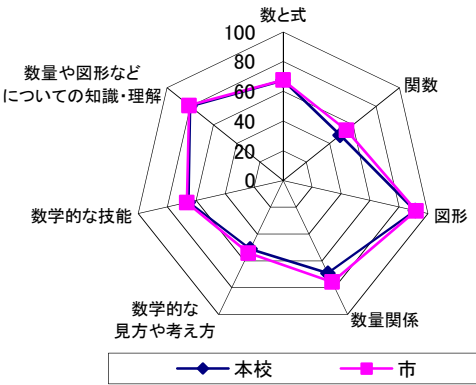
★指導の工夫と改善

領域		本年度の状況	今後の指導の重点
地理	世界の様々な地域	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を0.2ポイント上回っている。 ・原爆投下とサンフランシスコ平和条約の理解は市の正答率を上回っているが、第二次世界大戦の理解と女性の参政権の保障について考えることは下回っている。	・3年の歴史で現代史に取り組む際に、今回の結果をふまえて小学校の内容の復習を丁寧に行うよう指導していく。また、平和学習の前などに、授業の中で話題に取り上げていく。
	我が国の歴史	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を4.9ポイント下回っている。 ・日本国憲法における天皇の地位の理解は市の正答率を上回っているが、日本国憲法の三大原則の理解と身近な事例と三大原則との関わりについて考えることは下回っている。	・憲法記念日の前など折に触れて、日本国憲法を話題に取り上げ、興味・関心が高まるよう指導していく。
歴史	古代までの日本	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を2.0ポイント下回っている。 ・日本の国際化に関するグラフの読み取りと、日本の国際交流に関する資料を読み取りその目的を考えることが市の正答率を下回っている。	・資料の読み取りがあまり得意でない傾向は日々の授業でも見られるので、より多くの資料に触れさせることで資料活用・技能が高まるよう指導していく。
	我が国の政治	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を1.1ポイント下回っている。 ・世界の諸地域のアジアについては市の正答率を上回っているが、地球の姿をとらえることと世界各地の人々の生活と環境についてが下回っている。	・地球儀や地図を活用し、地球の全体像をとらえられるよう引き続き指導していく。
公民	世界の中の日本	・宇都宮市と本校を比較した場合、本校が市の平均を12.5ポイント下回っている。 ・特に古墳の形状と呼称や聖徳太子の仕えた天皇に関することが市の正答率を大きく下回っている。	・基本的な歴史事項がしっかり覚えきれていないので、小テストなどの回数を増やし、しっかり覚えさせるようにしていく。

宇都宮市立旭中学校 第1学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	数と式	67.5	67.6
	関数	49.0	54.4
	図形	91.1	91.7
	数量関係	69.2	75.8
観点別	数学的な見方や考え方	51.2	54.2
	数学的な技能	65.4	66.6
	数量や図形などについての知識・理解	80.3	81.1



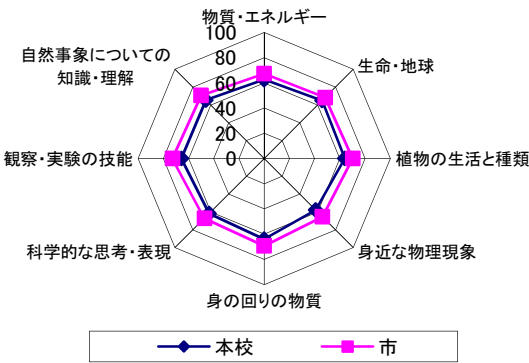
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	・宇都宮市と本校を比較した場合、0. 2ポイント下回っている。 ・正、負の数の計算や文字式の計算の正答率は市よりも高い。しかし、数量の大小関係を不等号を使って表したり、正負の数を用いて5人の生徒の平均点を求めることの正答率は低い。	・例年のように正負の数や文字式について様々な形の(分数や少数等)計算練習を行い、計算技能を高めていく。 ・文章題等の題意の読み取り力をつけ、筋道を立てて、課題を解決するための説明力を身につけさせることが大切である。そのために例題をよく理解させ、多くの類似問題を解くことによって、課題解決力が身につくように支援していく。
関数	・宇都宮市と本校を比較した場合、5. 4ポイント下回っている。 ・表から比例の式を求めたり、比例のグラフから座標を読み取る問題の正答率は市より低い。	・関数概念の定着不足がある。2つの変数の関係に着目させ、表や式でその2つの変数の関係を表すことができることを確認させる。 ・1組の値から比例の式を求めたり、式からx,yのどちらか一方がわかっているときの他方の値を求めたりすることができる技能を身につけさせることが大切である。そのために比例関係にある具体的事象を使いながら、基本的な技能習得のために支援していく。
図形	・宇都宮市と本校を比較した場合、0. 6ポイント下回っている。 ・今回の図形問題は小学6年の内容である拡大図についての理解力を見る問題であったので、比較的正答率が高く、知識が身についている。	・小学の内容の理解を深めながら、中学の図形の基礎基本を身につけさせることが大切である。 ・作図の技能習得のため、図形の性質を理解させ、それを使って作図をすることを丁寧に教えていく。
数量関係	・宇都宮市と本校を比較した場合、6. 6ポイント下回っている。 ・今回の数量関係の問題は小学6年の内容である順列と組合せの基本的な問題であったが、正答率が低く、知識が身についていない。	・数量関係の分野で確率(順列・組合せ)は2学年の学習内容になる。学習時期では小学の学習内容を復習しながら、授業を進め、知識の定着を図る。

宇都宮市立旭中学校 第1学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	物質・エネルギー	62.7	67.3
	生命・地球	65.0	68.4
	植物の生活と種類	63.9	70.2
	身近な物理現象	57.8	65.4
	身の回りの物質	64.0	69.3
観点別	科学的な思考・表現	61.8	67.1
	観察・実験の技能	65.7	72.8
	自然事象についての知識・理解	65.5	70.8



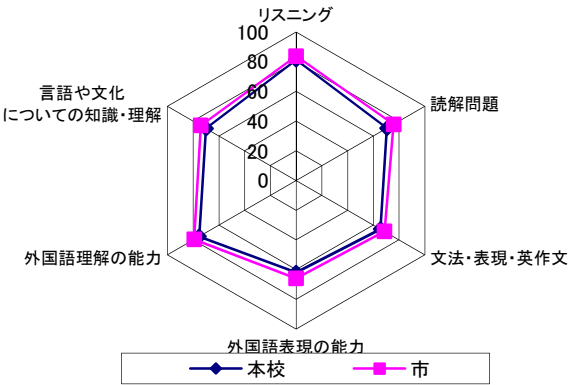
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	てこのはたらきでは、てこの規則性は理解度がやや低いが、てこをつくりあわせるためのおもりの重さや位置についてはある程度理解していると思われる。また、電気の利用では発光ダイオードの点灯について正解率が低い。これは解答の方法が記述式であるのが主な原因であると思われる。	てこをはじめとして小学校で学習した内容についても、同じような内容の学習を始めるときの導入として復習するなど、繰り返し知識の確認をする機会を授業の中でつくる。 また、この問題に限らず、記述式の問題があると敬遠してしまう生徒が多いので、今後実験レポートや調べ学習などで文章で書く練習をさせる。
生命・地球	地層の堆積のしかたについては比較的よく理解しているが、小学校で学習した内容でもあるので定着していると思われる。堆積岩を構成する粒の大きさなどの特徴については理解度が低い。	堆積岩の観察を丁寧に行い、観察のポイントを明確に示して調べさせることが大切である。
植物の生活と種類	生物のスケッチの仕方や植物の分類についてはよく理解している。他の内容は全国平均とほぼ同じ程度の正解率となっている。	今後も引き続き多くの実験や観察を取り入れて、関心を高めていく。
身近な物理現象	市の平均値に比べて7.6ポイントほど下回る結果になった。また、クラス間の平均値にも大きな差がみられる。特に屈折の問題では、どのクラスでも正答率が他の2つに比べて低いことから屈折の性質についての理解が不足していたと思われる。	反射や屈折の基本的な法則については、教科書の実験で理解させることができるが、その後、実生活の中での応用的な問題についても取り組ませるようにする。
身の回りの物質	気体を発生させて性質を確かめる実験は、よく理解して正答率が高い。一方でプラスチックについての問いでは、水の密度に比較して答える問題で正答率が低くなっているが、これは、密度がどのようなものか理解していなかったからであると思われる。	基本的な学習の後に、実生活の中での事象についても例を探して紹介するなど授業でも工夫する。

宇都宮市立旭中学校 第1学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
領域別	リスニング	81.2	83.8
	読解問題	70.5	75.7
	文法・表現・英作文	65.5	68.6
観点別	外国語表現の能力	61.9	65.9
	外国語理解の能力	75.4	79.2
	言語や文化についての知識・理解	70.1	74.2



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
リスニング	・宇都宮市と本校を比較した場合、2, 6ポイント下回っている。	・あいさつ後毎時間Warm-upとしてQ&Aを行っているが、ワンパターン化しているので既習内容を取り入れながら質問の仕方を工夫し、その内容を聞き取らせるようにする。 ・ALTとのTT授業では、できるだけ英語を使い、英語に触れる機会を増やし、会話の内容を聞き取らせるような工夫をする。
読解問題	・宇都宮市と本校を比較した場合、5, 2ポイント下回っている。	・教科書の本文以外の長文に触れることが少なかったため、プリントを作成し授業の中でもっと多くの長文に触れさせる。またその内容を把握し、質問文に答えるような授業の展開を増やしていく。
文法・表現・英作文	・宇都宮市と本校を比較した場合、3, 1ポイント下回っている。	・基本的な文や単語を繰り返し書く練習をして、その定着を図る。 ・文法については練習問題を作成し、継続的に指導していく。英作文についても1つのテーマを設定して、できるだけたくさんの英文が書けるように時間を確保してその機会を増やしていく。 ・特に下位の生徒に関しては、とにかく理解できるまで何度も繰り返し書く練習ができるように時間を確保して個別指導を行う。